

四半期報告書

自 平成 26 年 7 月 1 日
(第 121 期 第 2 四半期)
至 平成 26 年 9 月 30 日

大日本印刷株式会社

目次

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 2

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 3
- 2 経営上の重要な契約等 3
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 3

第3 提出会社の状況

- 1 株式等の状況
 - (1) 株式の総数等 7
 - (2) 新株予約権等の状況 7
 - (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 7
 - (4) ライツプランの内容 7
 - (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 7
 - (6) 大株主の状況 8
 - (7) 議決権の状況 9
- 2 役員の状況 10

第4 経理の状況 11

- 1 四半期連結財務諸表
 - (1) 四半期連結貸借対照表 12
 - (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2 四半期連結累計期間 14
四半期連結包括利益計算書
第2 四半期連結累計期間 15
 - (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 16
 - 注記事項 18
- 2 その他 23

第二部 提出会社の保証会社等の情報 24

四半期レビュー報告書

【表紙】

【提出書類】

四半期報告書

【根拠条文】

金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】

関東財務局長

【提出日】

平成26年11月10日

【四半期会計期間】

第121期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】

大日本印刷株式会社

【英訳名】

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】

代表取締役社長 北 島 義 俊

【本店の所在の場所】

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

【電話番号】

03(5225)8370

【事務連絡者氏名】

経理部長 黒 柳 雅 文

【最寄りの連絡場所】

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

【電話番号】

03(5225)8370

【事務連絡者氏名】

経理部長 黒 柳 雅 文

【縦覧に供する場所】

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

大日本印刷株式会社情報ソリューション事業部

(大阪市西区南堀江一丁目17番28号 なんばSSビル)

(注) 情報ソリューション事業部は法定の縦覧場所ではないが、投資者の便宜のために任意に備置するものである。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第120期 第2四半期 連結累計期間	第121期 第2四半期 連結累計期間	第120期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	709,625	715,734	1,448,550
経常利益 (百万円)	27,021	25,309	53,285
四半期(当期)純利益 (百万円)	14,866	15,154	25,641
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	39,627	19,869	55,717
純資産額 (百万円)	965,979	988,854	976,386
総資産額 (百万円)	1,536,109	1,585,310	1,574,753
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	23.08	23.53	39.81
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	23.01	23.31	39.64
自己資本比率 (%)	59.93	59.64	59.20
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	64,862	48,254	120,108
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△29,345	△21,219	△58,370
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△68,230	△21,887	△80,038
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	182,935	202,636	199,813

回次	第120期 第2四半期 連結会計期間	第121期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.12	11.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2 【事業の内容】

大日本印刷グループ(以下「DNP」)は、当社及び子会社148社、関連会社20社で構成され、印刷事業においては、情報コミュニケーション、生活・産業、エレクトロニクスに関連する活動を行っており、清涼飲料事業においては、清涼飲料に関連する活動を行っている。

当第2四半期連結累計期間において、DNPが営む事業の内容について、重要な変更はない。なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分方法を変更している。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」の「II 当第2四半期連結累計期間」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載している。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりである。

(情報コミュニケーション部門)

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である㈱DNPグラフィカは、当社の連結子会社である㈱DNPメディアテクノ関西を吸収合併した。また、当社の連結子会社である㈱DNPデータテクノは、当社の連結子会社である㈱DNPデータテクノ関西及び㈱DNPトータルプロセス蔵を吸収合併した。

当該合併を含む、当第2四半期連結会計期間において実施した当社及び全国に展開する子会社の組織体制の再編の詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (企業結合等関係)」に記載している。

(エレクトロニクス部門)

第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であったDNP Photomask Technology Taiwan Co.,Ltd.(以下「DPTT」)を、Photronics, Inc.の子会社であるPhotronics Semiconductor Mask Corp.(Photronics DNP Mask Corporation)に商号変更。以下「PDMC」)に吸収合併させた。本合併によりDPTTは消滅したため連結の範囲から除外し、PDMCを持分法適用の範囲に含めている。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下各項目の記載金額は消費税等抜きのものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の一連の経済政策の効果により雇用情勢や企業収益が改善するなど、緩やかな回復基調が続いた。しかしながら、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動や天候不順の影響、新興国をはじめとする海外経済の減速などの影響もあり、本格的な景気回復には至らなかった。

印刷業界においては、需要の伸び悩みや競争激化による受注単価の下落に加え、原材料価格の上昇もあり、引き続き厳しい経営環境にあった。

このような状況のなか、DNPは、事業ビジョン「P&Iソリューション」に基づき、「未来のあたりまえを作る。」ことを目指して、生活者の視点やソーシャル、グローバルな視点に立って、積極的な事業展開に取り組んでいる。

当期においては、顧客サービスの向上、ソリューション提案の充実、生産の効率化などを目的として、7月に全国的な組織再編を実施した。商業印刷やビジネスフォーム事業については、営業・企画・製造の全国の組織を統合し、また、すでに生産体制を全国で統一している包装事業については、営業・企画の組織を統合して全国を統括する体制とした。今後も、収益基盤を一層強化すべく国内外の事業体制の再編を進め、業績確保に努めていく。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,157億円(前年同期比0.9%増)、営業利益は224億円(前年同期比6.6%減)、経常利益は253億円(前年同期比6.3%減)、四半期純利益は151億円(前年同期比1.9%増)となった。

セグメントごとの業績は、次のとおりである。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいている。

[印刷事業]

(情報コミュニケーション部門)

出版印刷関連は、書籍を中心に積極的な営業を展開したが、出版市場の低迷が続くなか、書籍、雑誌とも前年を下回った。

商業印刷関連は、チラシ、カタログなど印刷物が全般的に減少し、前年を下回った。

ビジネスフォーム関連は、金融機関や電子マネー向けのICカードが増加したが、パーソナルメールなどのデータ入力から印刷・発送までの業務を行うIPS(Information Processing Services)が減少し、前年を下回った。

教育・出版流通事業は、書店の店頭販売とネット通販、電子書籍販売サービスを連携させたハイブリッド型総合書店「h o n t o」の事業拡大に努めた。また、図書館サポート事業や出版事業などが順調に推移したこともあり、前年を上回った。

その結果、部門全体の売上高は3,429億円(前年同期比0.1%増)、営業利益は32億円(前年同期比42.1%減)となった。

(生活・産業部門)

包装関連は、紙のパッケージは前年を下回ったが、プラスチックフィルムパッケージが堅調に推移したほか、ペットボトル用無菌充填システムの販売が増加し、前年を上回った。

住空間マテリアル関連は、駆け込み需要の反動により国内住宅着工戸数が減少する厳しい環境のなか、DNP独自のEB (Electron Beam) コーティング技術を活かした環境配慮製品などは堅調に推移し、前年を上回った。

産業資材関連は、リチウムイオン電池用ソフトパックは減少したが、写真プリント用の昇華型熱転写記録材(カラーインクリボンと受像紙)などが増加し、前年を上回った。

その結果、部門全体の売上高は2,315億円(前年同期比2.5%増)、営業利益は112億円(前年同期比17.2%増)となった。

(エレクトロニクス部門)

液晶カラーフィルターは、スマートフォンやタブレット端末向けなどの中小型品は堅調に推移したが、大型テレビやパソコン向けが減少し、前年を下回った。

半導体製品用フォトマスクは、国内向けが伸び悩んだものの、堅調な海外需要を取り込んだ結果、前年を上回った。

光学フィルム関連は、偏光板向け製品は増加したが、その他の用途では減少し、全体としては前年を下回った。

その結果、部門全体の売上高は1,165億円(前年同期比2.0%減)、営業利益は124億円(前年同期比6.1%減)となった。

[清涼飲料事業]

(清涼飲料部門)

清涼飲料業界において、シェア争いによる厳しい市場環境が続くなか、新商品投入によるシェアの拡大や新規顧客の獲得などに取り組んだ。

その結果、主力商品の「コカ・コーラ」と軽量ペットボトルを使ったミネラルウォーター「い・ろ・は・す」やスポーツ飲料が増加し、部門全体の売上高は274億円(前年同期比6.7%増)、営業利益は5千万円(前年同期比60.3%増)となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」)は、2,026億円(前年同期比10.8%増)となり、前連結会計年度末に比べて28億円増加した。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は482億円(前年同期比25.6%減)となった。これは、税金等調整前四半期純利益234億円、減価償却費328億円等によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は212億円(前年同期比27.7%減)となった。これは、有形固定資産の取得による支出264億円等によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は218億円(前年同期比67.9%減)となった。これは、配当金の支払額105億円、借入金の減少82億円等によるものである。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、DNPが対処すべき課題について、重要な変更はない。

なお、株式会社の支配に関する基本方針は以下のとおりである。

株式会社の支配に関する基本方針

(1) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、株式を上場して市場での自由な取引に委ねているため、会社を支配する者のあり方は、最終的には株主全体の意思に基づいて決定されるべきであり、会社の支配権の移転を伴う買収提案に応じるか否かの判断についても、最終的には、株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えている。

しかし、当社株式の大量買付行為の中には、大量買付者のみが他の株主の犠牲の上に利益を得るような大量買付行為、株主が買付けに応じるか否かの判断をするために合理的に必要な期間・情報を与えない大量買付行為、大量買付け後の経営の提案が不適切である大量買付行為、大量買付者の買付価格が不当に低い大量買付行為等、株主共同の利益を毀損するものもあり得る。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方として、当社の企業理念を理解し、当社の様々なステークホルダーとの信頼関係を築きながら、企業価値ひいては株主共同の利益を中・長期的に確保・向上させることができる者でなければならないと考えている。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大量買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えている。

(2) 会社の支配に関する基本方針の実現のための取り組み

この基本方針に基づき、当社株式の大量買付けが行われる場合の 절차를定め、株主が適切な判断をするために必要かつ十分な情報と時間を確保するとともに、大量買付者との交渉の機会を確保することで、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資するために、当社は、買収防衛策を導入しているが、平成25年6月27日開催の当社第119期定時株主総会において承認を得て、一部変更の上、継続した(以下、継続後のプランを「本プラン」)。本プランの概要は次のとおりである。

① 買付説明書及び必要情報の提出

株券等保有割合が20%以上となる当社株式の買付け等をする者(以下「買付者」)は、買付行為を開始する前に、本プランに従う旨の買付説明書、及び買付内容の検討に必要な、買付者の詳細、買付目的、買付方法その他の情報を、当社に提出するものとする。

② 独立委員会による情報提供の要請

下記(3)に記載された独立委員会(以下「独立委員会」)は、買付者より提出された情報が不十分であると判断した場合は、買付者に対して、回答期限(最長60日)を定めて、追加的に情報を提供するよう求めることがある。また、当社取締役会に対して、回答期限(最長30日)を定めて、買付けに対する意見、代替案等の提示を求めることがある。

③ 独立委員会の検討期間

独立委員会は、買付者及び当社取締役会から情報を受領した後60日間の評価期間をとり、受領した情報の検討を行う。なお、独立委員会は、買付者の買付け等の内容の検討、買付者との協議・交渉、代替案の作成等に必要とされる合理的な範囲内(最長30日)で期間延長の決議を行うことがある。

④ 情報の開示

当社は、買付説明書が提出された事実及び買付者より提供された情報のうち独立委員会が適切と判断する事項等を、独立委員会が適切と判断する時点で株主に開示する。

⑤ 独立委員会による勧告

独立委員会は、買付者が本プランに従うことなく買付け等を開始したと認められる場合、又は独立委員会における検討の結果、買付者の買付け等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を害するおそれがあると判断した場合は、当社取締役会に対して、本プランの発動(新株予約権の無償割当て)を勧告する。なお、独立委員会は当該勧告にあたり、本プランの発動に関して事前に株主総会の承認を得るべき旨の留保を付すことがある。

⑥ 当社取締役会による決議

当社取締役会は、独立委員会からの勧告を最大限尊重して、新株予約権の無償割当ての実施又は不実施に関して決議する。なお、当該決議を行った場合は、速やかに、当該決議の概要の情報開示を行う。

⑦ 大量買付行為の開始

買付者は、当社取締役会が新株予約権の無償割当ての不実施を決議した後に、買付け等を開始するものとする。

(3) 独立委員会の設置

本プランを適正に運用し、取締役の恣意性を排するためのチェック機関として、独立委員会を設置する。独立委員会の委員は3名以上とし、公正で客観的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役、又は社外の有識者の中から選任するものとし、当社社外取締役の塚田忠夫氏、当社社外監査役の松浦恂氏及び慶應義塾大学法学部教授の宮島司氏(平成26年6月27日付 当社社外取締役)が就任した。

(4) 本プランの合理性

本プランは、買収防衛策に関する指針等の要件を完全に充足していること、株主意思を重視するものとなっていること、経営陣から独立した独立委員会の判断が最大限尊重されること等の点で、合理性のあるプランとなっている。そのため、本プランは、当社の上記基本方針に沿い、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断している。

なお、本プランの詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト参照。

(http://www.dnp.co.jp/ir/pdf/info_130627bouei.pdf)

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるDNP全体の研究開発費は15,682百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において、DNPの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,490,000,000
計	1,490,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	700,480,693	700,480,693	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株である。
計	700,480,693	700,480,693	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	—	700,480	—	114,464	—	144,898

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	41,826	5.97
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	30,882	4.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	29,258	4.18
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	21,913	3.13
自社従業員持株会	東京都新宿区市谷加賀町1-1-1	15,835	2.26
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	9,471	1.35
ステート ストリート バンク アンド ト ラスト カンパニー 505225 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都中央区月島4-16-13)	7,965	1.14
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジ タリ レシート ホルダーズ (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	ONE WALL STREET, NEW YORK, N. Y. 10286, U. S. A. (東京都千代田区大手町1-2-3)	7,560	1.08
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	RUE MONTROYERSTRAAT 46, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	6,677	0.95
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 み ずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービ ス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12 晴海 アイランドトリトンスクエアオフィ スタワーZ棟	6,658	0.95
計	—	178,047	25.42

- (注) 1. 上記のほか、当社が実質的に所有している自己株式が56,064,571株ある。
2. 「第一生命保険株式会社」については、上記の他に退職給付信託に係る信託財産として設定した当社株式が3,764千株ある。
3. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから平成25年1月4日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成24年12月24日現在で、以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として平成26年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めていない。
- なお、大量保有(変更)報告書の内容は以下の通りである。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	3,537	0.51
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	32,562	4.65
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	4,037	0.58
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2-5-2	2,525	0.36
計	—	42,662	6.09

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 56,064,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 1,085,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 641,275,000	641,274	—
単元未満株式	普通株式 2,056,693	—	1 単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	700,480,693	—	—
総株主の議決権	—	641,274	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,000株が含まれている。また、「議決権の数」の欄には、同株式に係る議決権の数1個は含まれていない。
2. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式3,000株が含まれている。また、「議決権の数」の欄には、同株式に係る議決権の数3個が含まれている。
3. 「単元未満株式」の「株式数」の欄には、自己株式が571株含まれている。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大日本印刷(株)	東京都新宿区市谷加賀町1-1-1	56,064,000	—	56,064,000	8.00
教育出版(株)	東京都千代田区神田神保町2-10	1,085,000	—	1,085,000	0.15
計	—	57,149,000	—	57,149,000	8.16

- (注) 自己株式56,064,000株以外に株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が1,000株ある。
- なお、当該株式数は上記の①「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の「株式数」に含まれている。

2 【役員の方況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の方動は、次のとおりである。

(役職の方動)

新役名及び職名		旧役名及び職名		氏名	異動年月日
代表取締役 副社長	ファインオプトロニクス事業部 担当 イメージングコミュニケーション 事業部担当 研究開発センター担当 技術開発センター担当 MEMSセンター担当 知的財産本部担当 研究開発・事業化推進本部担当 技術本部担当 高機能マテリアル本部担当 ABセンター長	代表取締役 副社長	ファインオプトロニクス事業部 担当 イメージングコミュニケーション 事業部担当 研究開発センター担当 技術開発センター担当 事業開発センター担当 電子システムセンター担当 MEMSセンター担当 知的財産本部担当 研究開発・事業化推進本部担当 技術本部担当 S I 事業開発推進本部担当 高機能マテリアル本部担当 ABセンター長	高 波 光 一	平成26年7月1日
常務取締役	C & I 事業部担当 I C C 本部担当 h o n t o ビジネス本部担当	常務取締役	C & I 事業部担当 I C C 本部担当 h o n t o ビジネス本部担当 S I 事業開発推進本部担当	北 島 元 治	平成26年7月1日
常務取締役	情報ソリューション事業部担当	常務取締役	情報ソリューション事業部担当 総合企画営業本部担当	墓 田 栄	平成26年7月1日

(注) 上記の他、常務役員・役員に関しては、次のとおりである。

新役名及び職名		旧役名及び職名		氏名	異動年月日
常務役員	高機能マテリアル本部担当	常務役員	事業開発センター担当 高機能マテリアル本部担当	山 口 正 登	平成26年7月1日
常務役員	ABセンターS I 事業開発推進 本部担当	常務役員	ソーシャルイノベーション研究 所担当	村 本 守 弘	平成26年7月1日
常務役員	研究開発・事業化推進本部担当 研究開発センター担当 MEMSセンター担当 海外事業統括本部担当 知的財産本部担当 ABセンター開発本部担当	常務役員	研究開発・事業化推進本部担当 研究開発センター担当 事業開発センター担当 電子システムセンター担当 MEMSセンター担当 ソーシャルイノベーション研究 所担当 海外事業統括本部担当 知的財産本部担当	杉 本 登志樹	平成26年7月1日
役員	ABセンターS I 事業開発推進 本部担当 情報システム本部担当	役員	S I 事業開発推進本部長 情報システム本部担当	高 田 和 彦	平成26年7月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、明治監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	203,212	202,657
受取手形及び売掛金	356,981	349,734
商品及び製品	91,681	97,942
仕掛品	28,509	30,978
原材料及び貯蔵品	19,464	21,092
その他	35,996	31,267
貸倒引当金	△2,791	△1,612
流動資産合計	733,054	732,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	195,326	186,788
機械装置及び運搬具（純額）	118,903	103,685
土地	153,159	153,412
建設仮勘定	27,577	30,199
その他（純額）	33,571	31,594
有形固定資産合計	528,538	505,680
無形固定資産		
その他	31,751	31,047
無形固定資産合計	31,751	31,047
投資その他の資産		
投資有価証券	217,059	240,613
その他	70,198	83,140
貸倒引当金	△5,848	△7,233
投資その他の資産合計	281,409	316,520
固定資産合計	841,699	853,248
資産合計	1,574,753	1,585,310

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	249,604	252,929
短期借入金	48,961	42,989
賞与引当金	17,310	16,966
その他	102,544	101,109
流動負債合計	418,422	413,995
固定負債		
社債	101,800	103,375
長期借入金	17,505	15,901
退職給付に係る負債	29,550	32,497
その他	31,089	30,687
固定負債合計	179,945	182,461
負債合計	598,367	596,456
純資産の部		
株主資本		
資本金	114,464	114,464
資本剰余金	144,898	144,898
利益剰余金	727,070	735,861
自己株式	△94,322	△94,348
株主資本合計	892,110	900,876
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,597	41,128
繰延ヘッジ損益	3	△2
為替換算調整勘定	144	△1,768
退職給付に係る調整累計額	5,473	5,180
その他の包括利益累計額合計	40,218	44,538
新株予約権	16	16
少数株主持分	44,040	43,423
純資産合計	976,386	988,854
負債純資産合計	1,574,753	1,585,310

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	709,625	715,734
売上原価	574,853	578,890
売上総利益	134,771	136,843
販売費及び一般管理費	※1 110,768	※1 114,432
営業利益	24,003	22,411
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,467	2,824
持分法による投資利益	611	721
その他	3,808	2,956
営業外収益合計	6,887	6,503
営業外費用		
支払利息	1,672	1,193
その他	2,197	2,410
営業外費用合計	3,869	3,604
経常利益	27,021	25,309
特別利益		
固定資産売却益	646	206
投資有価証券売却益	104	3,946
受取補償金	177	-
その他	-	1
特別利益合計	927	4,154
特別損失		
固定資産除売却損	1,934	943
投資有価証券評価損	154	24
事業統合損失	-	※2 4,342
その他	370	715
特別損失合計	2,458	6,026
税金等調整前四半期純利益	25,490	23,437
法人税、住民税及び事業税	6,909	6,742
法人税等調整額	2,735	879
法人税等合計	9,645	7,622
少数株主損益調整前四半期純利益	15,844	15,815
少数株主利益	978	661
四半期純利益	14,866	15,154

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	15,844	15,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,288	6,506
繰延ヘッジ損益	△1	6
為替換算調整勘定	9,126	△2,075
退職給付に係る調整額	-	△1,443
持分法適用会社に対する持分相当額	369	1,060
その他の包括利益合計	23,782	4,053
四半期包括利益	39,627	19,869
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,846	19,474
少数株主に係る四半期包括利益	1,781	395

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	25,490	23,437
減価償却費	36,409	32,882
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△428	275
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△4,904	-
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	-	△7,115
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	△121
持分法による投資損益 (△は益)	△611	△721
のれん償却額	1,407	1,057
受取利息及び受取配当金	△2,467	△2,824
支払利息	1,672	1,193
投資有価証券売却損益 (△は益)	△100	△3,910
投資有価証券評価損益 (△は益)	154	35
固定資産除売却損益 (△は益)	1,301	757
売上債権の増減額 (△は増加)	29,272	2,134
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,246	△10,106
仕入債務の増減額 (△は減少)	△15,163	3,101
その他	2,142	15,671
小計	71,926	55,745
特別退職金の支払額	△219	△153
法人税等の支払額	△6,845	△7,337
営業活動によるキャッシュ・フロー	64,862	48,254
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△1,617	387
有形固定資産の取得による支出	△25,690	△26,450
有形固定資産の売却による収入	4,157	2,976
投資有価証券の取得による支出	△6,024	△1,605
投資有価証券の売却による収入	467	6,863
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△248
利息及び配当金の受取額	3,220	3,250
その他	△3,858	△6,393
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,345	△21,219
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△817	△5,873
長期借入れによる収入	3,010	3,652
長期借入金の返済による支出	△3,537	△6,059
社債の発行による収入	-	1,963
社債の償還による支出	△50,380	△425
自己株式の取得による支出	△37	△27
子会社の自己株式の取得による支出	△0	△0
利息の支払額	△1,707	△1,190
配当金の支払額	△10,311	△10,311
少数株主への配当金の支払額	△352	△276
その他	△4,094	△3,339
財務活動によるキャッシュ・フロー	△68,230	△21,887

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,585	△1,114
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△29,127	4,033
現金及び現金同等物の期首残高	212,062	199,813
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	-	64
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	-	△1,274
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 182,935	※ 202,636

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であったDNP Photomask Technology Taiwan Co.,Ltd.を、合併による消滅に伴い連結の範囲から除外した。</p> <p>当第2四半期連結会計期間において、(株)DNPメディアテクノ関西、(株)DNPデータテクノ関西、(株)DNPトータルプロセス蔵を、合併による消滅に伴い連結の範囲から除外した。</p>
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間より、DNP Photomask Technology Taiwan Co.,Ltd.を合併したPhotronics DNP Mask Corporationを、持分法適用の範囲に含めている。</p>

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用している。</p> <p>これに伴い、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を、割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から主として退職給付の支払見込期間ごとに設定した複数の割引率を使用する方法へ変更した。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減している。</p> <p>この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が2,392百万円、退職給付に係る資産が9,190百万円それぞれ増加し、利益剰余金が4,000百万円増加している。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益が783百万円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ798百万円増加している。</p>	

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
給料及び手当	30,492百万円	31,325百万円
賞与引当金繰入額	5,717 "	5,833 "
退職給付費用	1,651 "	833 "

※2 事業統合損失

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

DNP Photomask Technology Taiwan Co.,Ltd.とPhotronics Semiconductor Mask Corp.との合併に伴い計上したものである。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	186,180百万円	202,657百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△3,245 "	△2,901 "
取得日から3か月以内に 償還期限の到来する短期投資 (その他の流動資産)	— "	2,879 "
現金及び現金同等物	182,935 "	202,636 "

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	10,312	16	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月7日 取締役会	普通株式	10,311	16	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	10,311	16	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	10,310	16	平成26年9月30日	平成26年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報コミュニ ケーション	生活・産業	エレクトロ ニクス	清涼飲料	合 計		
売上高							
外部顧客への売上高	339,525	225,489	118,912	25,697	709,625	—	709,625
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,929	387	0	1	3,318	△3,318	—
計	342,455	225,876	118,912	25,698	712,944	△3,318	709,625
セグメント利益	5,658	9,561	13,296	33	28,550	△4,547	24,003

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに帰属しない基礎研究並びに各セグメント共有の研究に係る費用である。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報コミュニ ケーション	生活・産業	エレクトロ ニクス	清涼飲料	合 計		
売上高							
外部顧客への売上高	340,587	231,202	116,513	27,430	715,734	—	715,734
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,358	385	7	2	2,754	△2,754	—
計	342,946	231,588	116,520	27,433	718,488	△2,754	715,734
セグメント利益	3,276	11,210	12,479	53	27,019	△4,608	22,411

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに帰属しない基礎研究並びに各セグメント共有の研究に係る費用である。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(1) 報告セグメントの区分方法の変更

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更している。

これは、平成26年4月に、ディスプレイ製品や半導体用フォトマスクなどを担当する事業部と、液晶ディスプレイ用表面フィルムなどの光学フィルムを担当する事業部を統合したことに伴うものであり、従来「生活・産業部門」に含めていた光学フィルム関連事業を、「エレクトロニクス部門」に含める方法に変更している。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載している。

(2) 「退職給付に関する会計基準」等の適用

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更している。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「情報コミュニケーション部門」のセグメント利益が369百万円増加し、「生活・産業部門」のセグメント利益が187百万円増加し、「エレクトロニクス部門」のセグメント利益が108百万円増加し、「清涼飲料部門」のセグメント利益が70百万円増加している。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

共通支配下の取引等

当社は、平成26年7月1日付で、情報コミュニケーション及び包装の両事業分野において、当社及び全国に展開する子会社の組織体制を再編し、営業体制については当社の全国組織として再構築するとともに、製造体制については事業分野ごとに全国を統括する製造子会社へ統合した。

(1) 営業体制の再編

① 取引の概要

ア. 対象となった事業の名称及び当該事業の内容

事業の名称	株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP中部、株式会社DNP西日本の情報コミュニケーション及び包装の両事業分野
事業の内容	情報コミュニケーション及び包装の両事業分野における営業部門

イ. 企業結合日

平成26年7月1日

ウ. 企業結合の法的形式

株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP中部、株式会社DNP西日本を吸収分割会社とし、当社を吸収分割承継会社とする分社型の吸収分割。

エ. 結合後企業の名称

大日本印刷株式会社

オ. 取引の目的を含む取引の概要

各地で培ってきた細やかな顧客対応力と首都圏を中心とした研究体制から生み出される最新の技術力を組み合わせ、国内全体を視野に入れた最適な営業対応を図るため、営業体制を再編し、当社の全国組織として再構築した。

② 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理している。

(2) 製造体制の再編

① 取引の概要

ア. 結合当事企業又は対象となった事業の名称及び当該事業の内容

結合当事企業 又は事業の名称	当社、株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP西日本の商業印刷関連及びビジネスフォーム関連の両事業、株式会社DNP中部の商業印刷関連事業、及び、株式会社DNPメディアテクノ関西、株式会社DNPデータテクノ関西、株式会社DNPトータルプロセス蔵
事業の内容	商業印刷関連及びビジネスフォーム関連の両事業における製造部門

イ. 企業結合日

平成26年7月1日

ウ. 企業結合の法的形式

(商業印刷関連事業)

当社、株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP中部、株式会社DNP西日本を吸収分割会社とし、株式会社DNPグラフィカを吸収分割承継会社とする分社型の吸収分割、及び、株式会社DNPメディアテクノ関西を消滅会社とし、株式会社DNPグラフィカを存続会社とする吸収合併。

また、企画、制作、プリプレス部門については、株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP中部、株式会社DNP西日本を吸収分割会社とし、株式会社DNPメディアクリエイトを吸収分割承継会社とする分社型の吸収分割。

(ビジネスフォーム関連事業)

当社、株式会社DNP北海道、株式会社DNP東北、株式会社DNP西日本を吸収分割会社とし、株式会社DNPデータテクノを吸収分割承継会社とする分社型の吸収分割、及び、株式会社DNPデータテクノ関西、株式会社DNPトータルプロセス蔵を消滅会社とし、株式会社DNPデータテクノを存続会社とする吸収合併。

エ. 結合後企業の名称

(商業印刷関連事業)

株式会社DNPグラフィカ

株式会社DNPメディアクリエイト

(ビジネスフォーム関連事業)

株式会社DNPデータテクノ

オ. 取引の目的を含む取引の概要

人材の有効活用や最適地生産など生産体制の変革を図るため、製造体制を再編し、事業分野ごとに全国を統括する製造子会社へ統合した。

② 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	23円08銭	23円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	14,866	15,154
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	14,866	15,154
普通株式の期中平均株式数 (千株)	643,972	643,884
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	23円01銭	23円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	△41	△140
(うち関係会社の潜在株式による影響額) (百万円)	(△41)	(△140)
普通株式増加数 (千株)	—	—

2 【その他】

平成26年11月6日開催の取締役会において、第121期中間配当に関し、以下のとおり決議した。

中間配当金総額	10,310百万円
1株当たりの中間配当額	16円00銭
効力発生日並びに支払開始日	平成26年12月10日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行う。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月10日

大日本印刷株式会社
取締役会 御中

明治監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 笹 山 淳 ⑩

代表社員
業務執行社員 公認会計士 二階堂 博文 ⑩

代表社員
業務執行社員 公認会計士 塚 越 継 弘 ⑩

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木 村 ゆりか ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大日本印刷株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大日本印刷株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。